歩み

課題は整理・整頓

自分の行動に責任を

明るく笑いがあり、積極的な挙手発表で授業を盛り上げる1組。体育大会や合唱コンクールなどの行事をとおして、学級としても成長してきた。しかし、解決すべき課題もある。その一つについて考えてみた。

4月からこれまで、担任である小森先生によく言われることがある。それは、身の回りの整理整頓ができていない人が多いということである。学級で整理整頓しなければいけない所は、ロッカー、机・椅子、雨具かけなどが挙げられる。1組のロッカーの様子を例に挙げてみると、ある人は、ファイル・資料集・ノート・教科書・辞典と大きい順にていねいに重ねて置いてある。さらに、無駄な物がなく、スペースをうまく利用して、スクールバックを置いている。いかにもお手本となるロッカーの姿だ。反対に、ある人は、ランドセルのふたが開いている、教科書がランドセルにたおれかかっている、プリントが放置してあるという状態だ。比較してみると、こんなにも沢山の違いがある。この他にも、移動教室の際の机の上の状態、廊下のバックの置き方など、問題となる場所はある。先生から整理整頓するよう言われても、その時だけということが多い。なぜなのだろうか。学級全員にアンケート調査を実施し、その原因と今後の課題について考えてみた。

注目した点は、学級での整理整頓に関しては、「できている」と答える人が多かったが、家での整理整頓に関しては、「できていない」と答えた人が多かったことである。

小森先生はよく、「整理・整頓や後始末をきちんとするということは、自分の行動に最後まで責任をもつということにつながる。」と話している。また、今回の調査結果に関しても、「家にいると自分がやらなくても家族の誰かがやってくれることが多い。甘える気持ちも分かるが、家族の一員として自分の身の回りのことに責任を

責任者　成田勇大
清書　鈴木真桜
記者
石井佳佑・桜庭和矢
明石真衣・小笠原瑠奈
小塚たか子・成田みかる

「よし、やるべ」で地域の活性化を

今年6月、北秋田市に「北秋田名物」という株式会社が設立された。「夢を待とう・夢を叶えよう」の社訓のもと、地域ブランドを総プロデュースする会社としてスタートした。社長は髙畠幸博さん。商工会青年部有志6人の役員11名の社員で組織されている。8月には、観光案内施設としてJR鷹巣駅前の空き店舗を活用したお店「Be（べ）」をオープンさせた。「寄るべ」「遊ぶべ」「休むべ」など一人でも多くの人に利用してもらいたいという願いとともに、「やるべ」という社員の意欲が、名称に込められている。

実際にお店に行ってみると、「高校生や若者が気軽に集える場・コミュニティスペース」があったり、お土産品の販売が行われたりしていた。1月に30人～40人の利用客が来店し、お土産品のお菓子を買いに来る人が多い。

最近は、開発に力を入れてきたオリジナル商品のソフトクリーム「クマデリア」が発売された。また、秋田内陸線の大切さを感じてもらうために、「内陸線食育ツアー」に協力したりと、様々な取り組みをとおして地域の活性化を目指している。

副社長の澤田吉広さんは、「儲かる地域にし、私たちも儲かる会社にしていきたい。これからも夢を実現させるために社員と共に頑張っていきたい。」と力強く語ってくれた。また、鷹巣中生には、「まず、大きな声であいさつをして、地域を活性化させてほしい。それから、『よし、やるべ！』と自分の夢を叶えることを頑張ってほしい。」と、励ましの言葉をいただいた。

少しずつ夢に近づいている「北秋田名物会社」。「Be（べ）」を訪れると、迎えてくれる社員の方の笑顔から、私たちも何かアクションをおこさなければ、何も始まらないことを感じるだろう。

残さず食べる努力を

成長期の体を支える給食

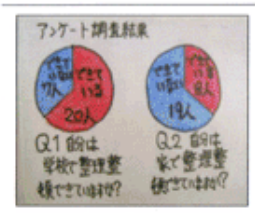
給食の時間、いつも気になることがある。それは、盛り付けるとほとんどなくなってしまうのに、食べ残す量が結構多いということである。このことについて、給食センターの方は、どのように思っているのか取材した。

鷹巣中生の人気メニューは、「カレーライス」「麺」「パン」で、とにかく味がついているもの、量が適しているもの、また甘いものなどが人気。味に気を配っているため、その日の残飯は少ないそうだ。しかし、おかずに野菜サラダや和え物が付くと、残す人が多い。給食センターの方は、「たくさん食べてほしいと思っていても、なかなか食べてくれない」と残念そうに話した。

私たちのために、一番気をつかっていることは、「栄養」と「安全性」。成長期の中学生のために、栄養分や量などの調整を行い、体づくりに役立ててほしいと願っている。また、センター内の衛生環境をよくしたり、安全な食材を選んだりすることで、私たちの健康を害することがないように気をつけている。

このような、給食センターの方の工夫や努力に、私たち鷹巣中生は、どのように応えていくべきか。

もう中学生で、自分の体を自分で管理できるようになっていかなければならない。だから、自ら進んで好き嫌いをせず、できる限り残さず食べる努力をしなければならないのではないだろうか。



もてない人は、学校でもそれが表れてしまうことがある。」と話してくれた。

今後は、学校での生活を見直すだけではなく、家での生活を見直すことも必要となりそうだ。一人一人の意識の向上を期待したい。

北秋田市民病院

開院待ち望む声

北秋田市民病院は、今年10月開院予定だったが、医師不足などの問題により、来年4月に開院予定が変更された。「医師不足」という問題は、今日の日本の医療現場でよく取り沙汰されている。このような問題が、高齢者の多い北秋田市でも起こることについて、市民はどう思っているのだろうか。

そこで、学級の生徒の親や近所の人たちにアンケートを行った。もっとも多かった回答は、「もっと慎重に考えてほしかった」「医師が不足することが最初から分からなかったのか」と厳しい意見である。その反面、「来年4月の開院に向けて、万全の準備をしてほしい」「市民に愛される病院になるよう頑張ってほしい」という応援の声も多く、新病院による期待を感じる。

開院が遅れたことは残念だが、「医師不足」という壁を乗り越えて早くその姿を見せてくれることを待ちたい。

団結力を自信にして

中学校最初の体育大会。特に力を入れて取り組んだ応援合戦で、みごとに「応援賞」を獲得した。

練習への意識低下で、担任の小森先生に気合いをかけられたこともあったが、振り付けがきれいに見えるようにと、お互いに教え合ったり、鏡に映したりして工夫しながら練習した。みんな必死だった。学級委員長の桜庭和矢さんは、「出会って間もない仲間が、一つのことに向かって団結するということの大切さと楽しさを学んだ。」と語る。その「団結力」で、どんな困難も乗り越えていけるという自信が、その後の活動にしっかりと生きている。

もう1つの大太鼓

綴子にある糠沢駅の駅舎が、今年7月、大太鼓形に改築された。この駅舎は、直径3．9m、幅3．7mの世界一大きい綴子大太鼓とほぼ同じ大きさである。なぜ大太鼓形になったのか。

それは、「地域に根ざしたデザイン」という案に地域の方の多くが賛成したからである。他の駅舎と比較してみると、目立っていて伝統を感じる。観光客も来そうである。駅周辺に住んでいる方にインタビューしてみると、「大太鼓の形は素敵だと思う」「綴子の特徴を生かしていて、名物になりそうだ」とよい印象をもっていた。

周りは田んぼで、大太鼓形がより目立つ。電車に乗っている人も注目するだろう。無人駅ではあるが、休日に弁当や特産物でも売る企画を行えば、地域の活性化につながるかもしれない。

コラム　思いを歌に

▼一人で生きてきたような顔して／生意気言ったりしてるけど／一人じゃなんにもできなくて／優しさいつも求める▼一組の合唱曲「歌おうOH MY HAPPINESS」の歌詞の一部である。この曲を初めて聴いた時、私たち中学生への応援歌だと思った。思春期をむかえ、いろんなことで悩む私たちに向けてのメッセージが、たくさんつまっている。▼歌詞の意味を考えずに、ただ歌っていただけの合唱練習。合唱を通して何かを伝えようという思いはなかった。しかし、音楽の授業で、辻淑子先生にこの曲を歌う意味を教ってから、1組の合唱が変わった。▼この曲の中の「至せ」とは、この広い地球の上に、奇跡の命をもらって生きていけるということである。だから、どんな悩みや困難が待っていようとも、素敵な明日に一歩を踏み出してみようという気持ちにさせてくれる。▼9月25日に行われた合唱コンクール。歌にのせたみんなの思いが、「銀賞」という結果につながった。

編集後記

私たちの新聞「歩み」は、4月から3日までの1組の歩みを振り返ることができる。学級の問題点や学校行事、地域の話題など、取材やアンケートを通して視野を広げることができた。この新聞を読んでくれた皆さんに、私たちの思いや考えが伝わることを願っている。